

# 豊洲新市場

## 「地下水管理」は破綻

### 尾崎都議 補正予算案撤回求める

#### 都議会委

日本共産党の尾崎あや子東京都議は1日の都議会経済・港湾委員会で、築地市場の移転先とする豊洲新市場(江東区の東京ガス工

場跡地)の土壌汚染対策として行っている地下水管理システムが破綻しており、追加対策で解決する見込みがないことを示し、補正予算案を撤回するよう求めました。

尾崎氏は、小池百合子知事が昨年8月に市場移転を延期した際に疑問点とした①安全性への懸念②巨額で不透明な費用増大③情報公開不足―は解消されていないと指摘。盛り土ら、システム本格稼働

とともに土壌汚染対策の柱としてきた地下水管理システムで、「1日最大600㌔の地下水を排水し予定地の地下水水位を海拔1・8㌔程度と目標の1割程度しかなく、地下水位も目標より1㌔以上も高い実態を挙げ、「設計ミスではないか」とた



質問する尾崎都議  
―1日、東京都議会

後10カ月たつのに地下水揚水実績が日量60㌔程度と目標の1割程度しかなく、地下水位も目標より1㌔以上も高い実態を挙げ、「設計ミスではないか」とた

でも揚水量の目標が当初目標と同程度、日量560㌔にしかならぬ。実証実験をすべきだ」と求めました。都中央卸売市場の鈴木理担当部長は「井戸の目詰まりで揚水量が確保できていない」と認めながら、「追加対策で地下水管理システムの機能強化を着実に」とし、尾崎氏はまた、小池知事が「正確な情報を

発信する」と答弁したことについて、土壌・地下水を環境基準以下にする「無害化」が達成できていないにもかかわらず、都中央卸売市場ホームページでは土壌汚染対策について「基準以下に処理する」としている。尾崎氏は「間違っただけで、補正予算案を通じてよいと思っただけか」と追及しました。